

1. 日時：平成26年10月23日（木） 10：00－11：45

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

（1）委員

松井部会長、家森委員、小野田委員、片岡委員、櫻井委員、下村委員、田近委員、永原委員、山川委員、山崎委員

（2）事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、内丸宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

（1）新宇宙基本計画に盛り込むべき事項について

[国際宇宙ステーション（ISS）計画及び有人宇宙探査]

資料1に基づき、文部科学省より説明があった。委員から以下のようなやり取りがあった。（以下、○質問・意見等、●文科省回答）

○日本が宇宙探査に参加しなければならない意義は何か。

●日本の国際的な発言力の維持・確保という意義があると考えている。

○日本人が火星に行けないようであれば、有人宇宙探査には、そもそも協力すべきではないという見解なのか。

●現在、枠組みが見えない中で、有人宇宙探査に要するコストも含めて検討する必要がある。現段階で有人によって参加しないと判断することは時期早尚であるが、将来、コスト的に難しいことが明らかになれば、参加しない決定もありうる。

○十分な予算があれば有人宇宙探査に意義が見い出せると考えられるが、厳しい財政状況を踏まえると、無人による宇宙探査がコスト的に現実的ではないか。

○日本人が火星に立つか、否かによって、国際的発言力の確保に影響を与えるのか。限られたコストの中では、無人等の他の技術を獲得し貢献していくことと有人宇宙活動とのバランスで考えるべきではないか。

●国際有人宇宙探査に係る各国のコスト負担割合は決まっていないので、それまでは有人か無人かは判断すべきではないと考えているが、国際的な発言力を考えれば、各国の宇宙飛行士がいる中で日本人が不在となる事態も勘案すべきと考える。

ISSを含む有人宇宙活動については、我が国の宇宙分野での国際的な発言力の維持をコンセプトとして考えることが適当であるとされた。

[新宇宙基本計画に盛り込むべき事項]

新宇宙基本計画に盛り込むべき事項について、委員から以下のような意見があった。

- 宇宙科学・探査については、まずボトムアップで行うことを基本とし、その後に昨年まとめられた宇宙科学・探査ロードマップの枠組みについて記載すべきではないか。
- 宇宙科学・探査については、長期間にわたるので人材育成についても盛り込むべきではないか。
- 宇宙科学・探査及び有人宇宙活動について、国の戦略にかかわるので、広い視点で検討する場を考えるべきではないか。

以 上